

金融高度化ワークショップ 2022.7.26 (火) 13時～

「地域金融機関の貸倒引当金を巡る環境」

事務局資料

金融機構局 金融高度化センター：竹内 淳一郎、植松 義裕



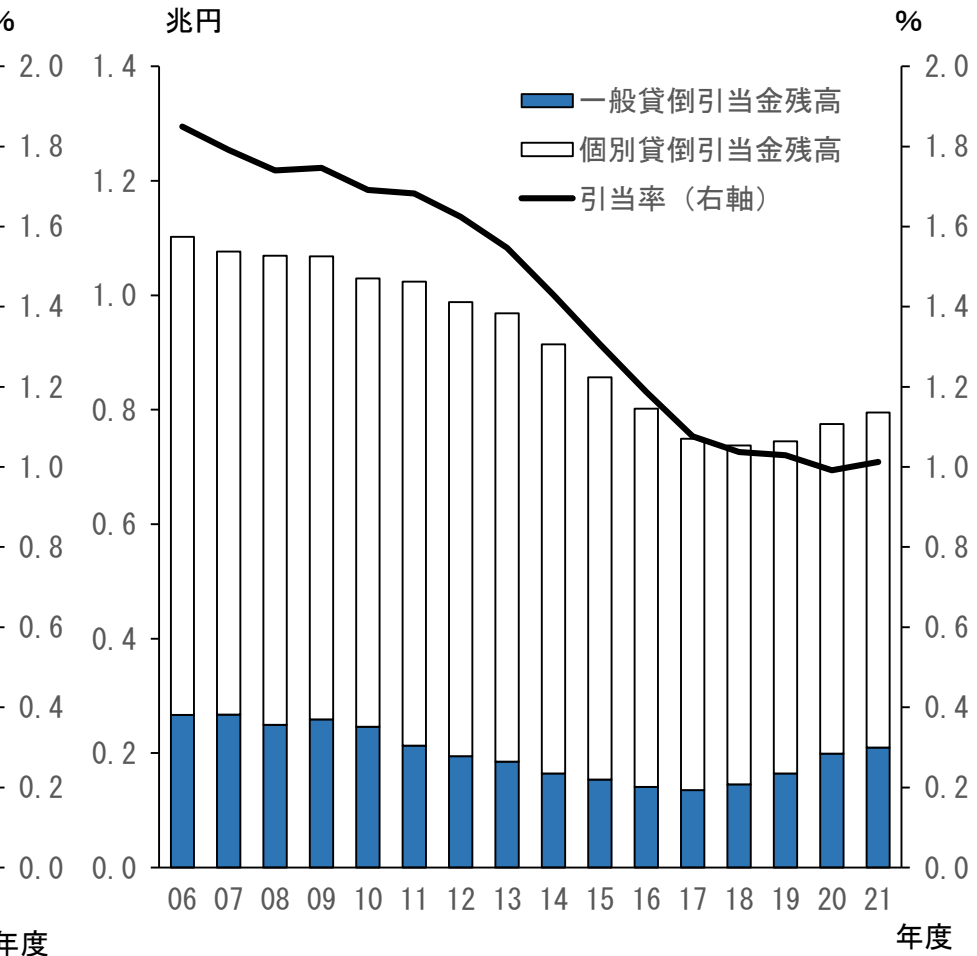
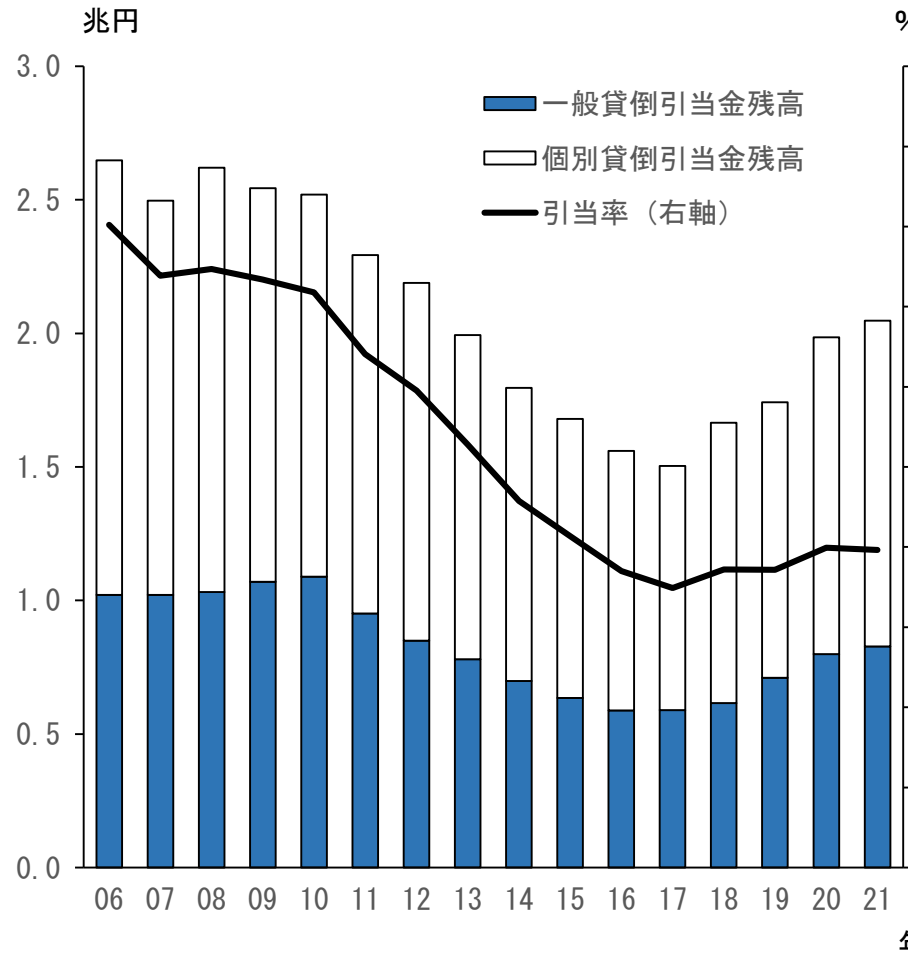
文中の意見に亘る部分は筆者らの個人的見解であり、所属する組織の見解ではない

地域金融機関の貸倒引当金残高（集計値）

▶ **地域銀行**の引当率は2017年度にかけ趨勢的に低下した後、若干切り上がっているが、かつてに比べ低位にとどまっている。**信用金庫**も同様に、低下基調を辿った後、このところ下げ止まっている。なお、地域銀行対比、引当率は高く、個別貸倒引当金の構成比が高いことが見て取れる。

＜地域銀行＞

＜信用金庫＞

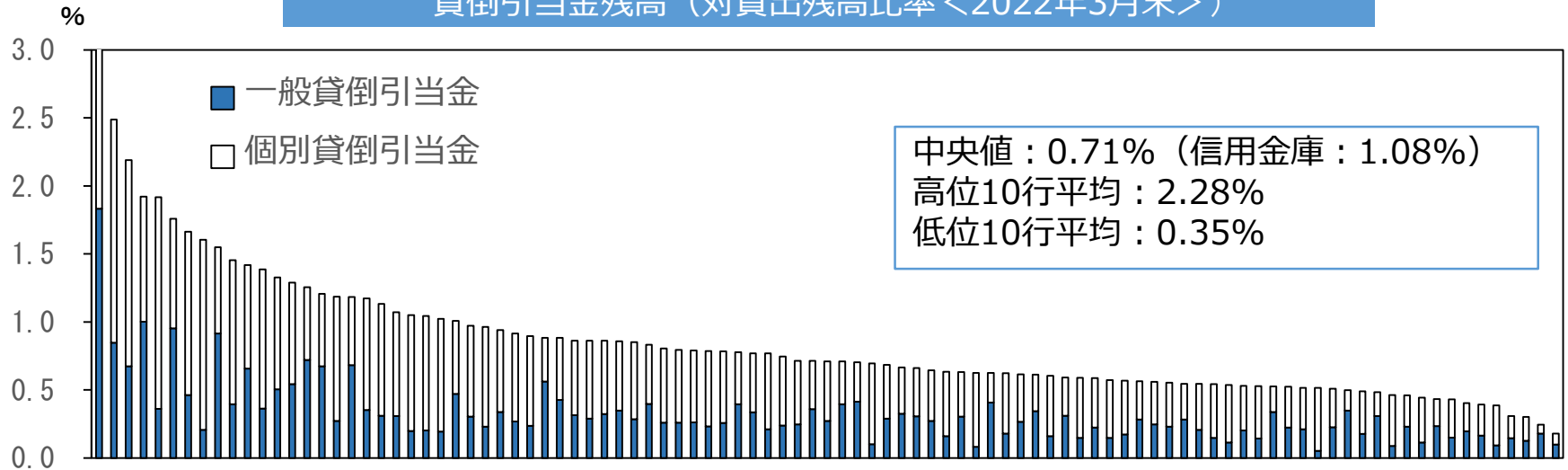


(注) 引当率 = (一般貸倒引当金残高 + 個別貸倒引当金残高) / 期末貸出残高で算出。

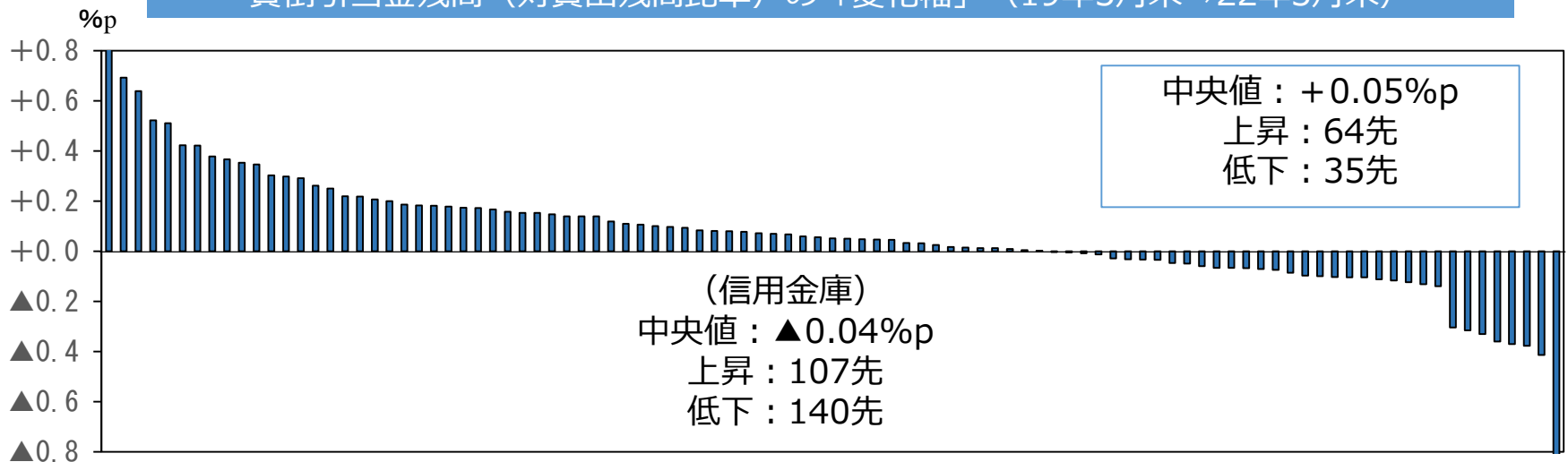
地域銀行の貸倒引当金残高（個別行）

- **地域銀行**の2022年3月期末時点の引当率をみると、相応にバラつきが見て取れる。金融検査マニュアル廃止前の19年3月期と比較すると、地域銀行では65%程度で引当率が上昇。

貸倒引当金残高（対貸出残高比率 <2022年3月末>）



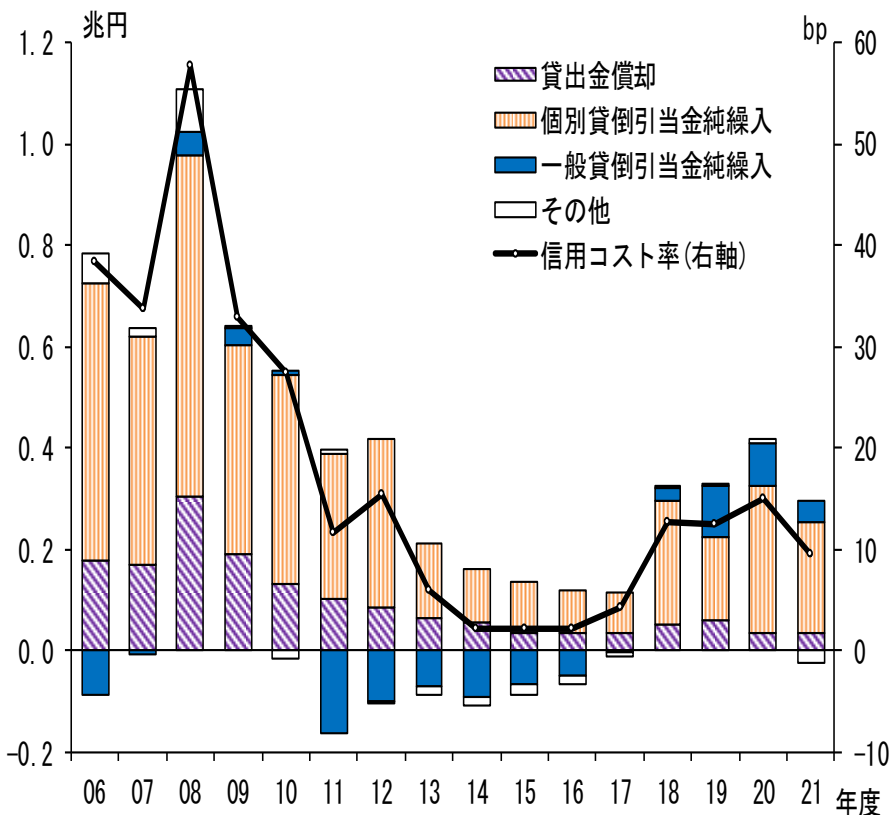
貸倒引当金残高（対貸出残高比率）の「変化幅」（19年3月末⇒22年3月末）



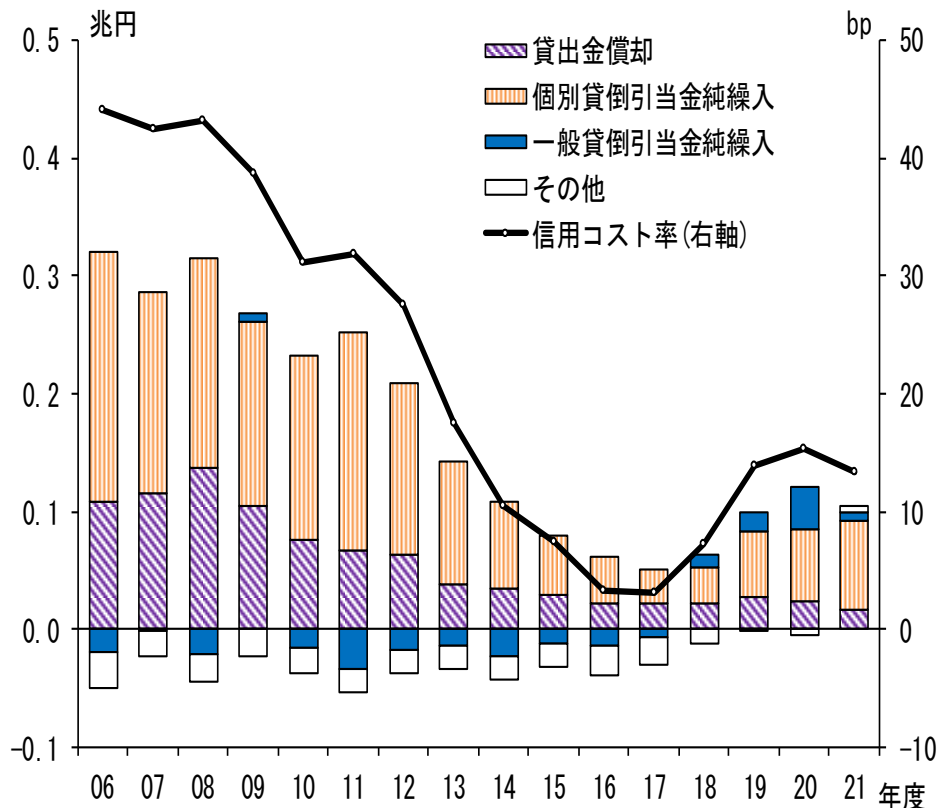
地域金融機関の信用コスト（集計値）

▶ **地域銀行、信用金庫**の信用コスト率はリーマン・ショック時に大きく上昇した後、低下基調を辿った。2018年度以降は、一般貸引が戻入から繰入へ転化したほか、個別貸引の増加も加わって、水準を幾分切り上げている。ただし、現状、コロナ・ショックの影響に拡がりは見られていない。

<地域銀行>

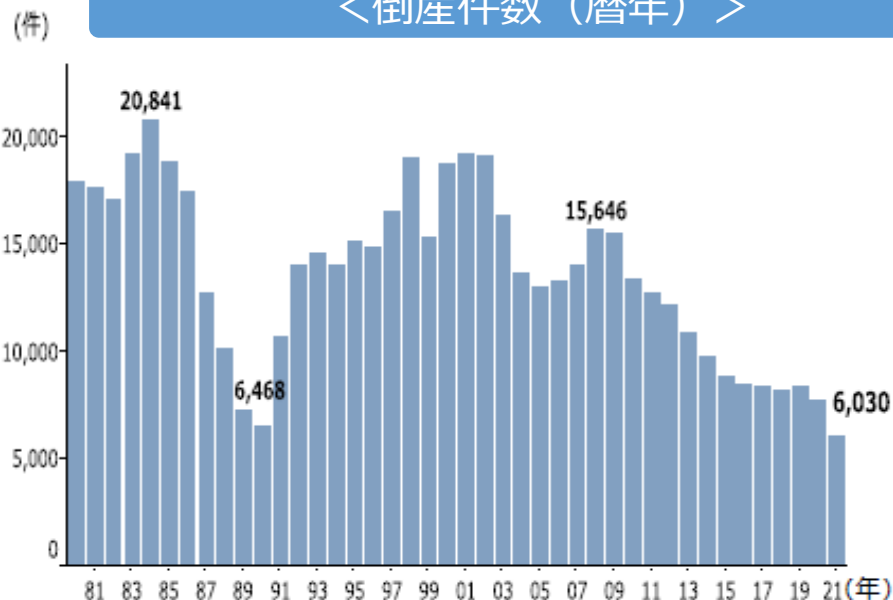


<信用金庫>

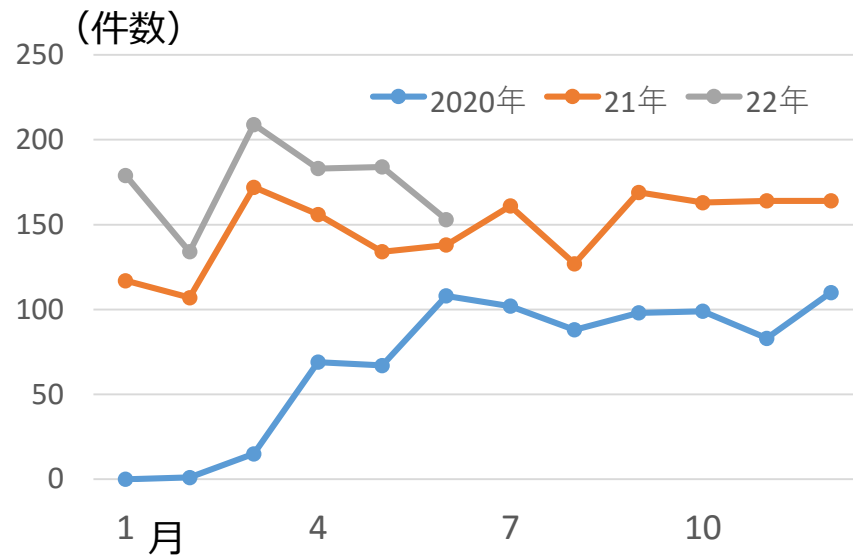


信用コストを巡る外部環境：コロナ禍、原材料高、海外景気

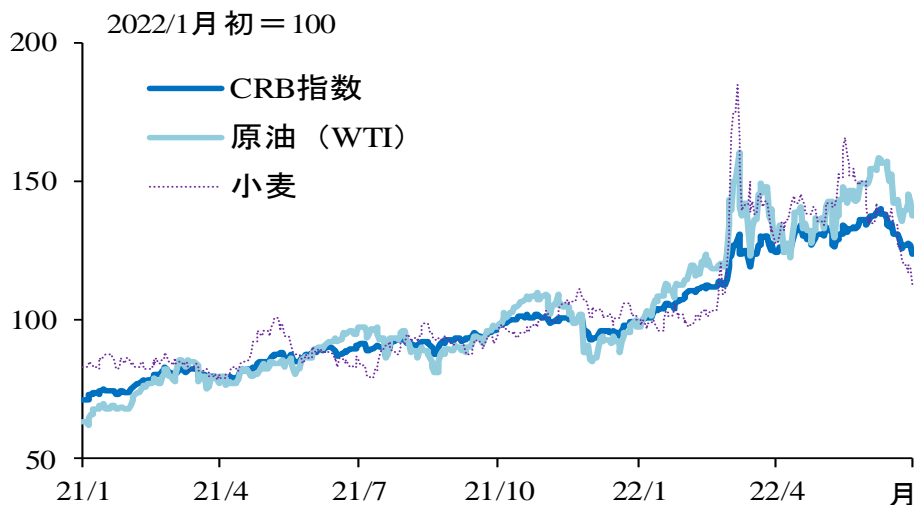
＜倒産件数（暦年）＞



＜新型コロナウイルス関連倒産＞



＜商品市況＞



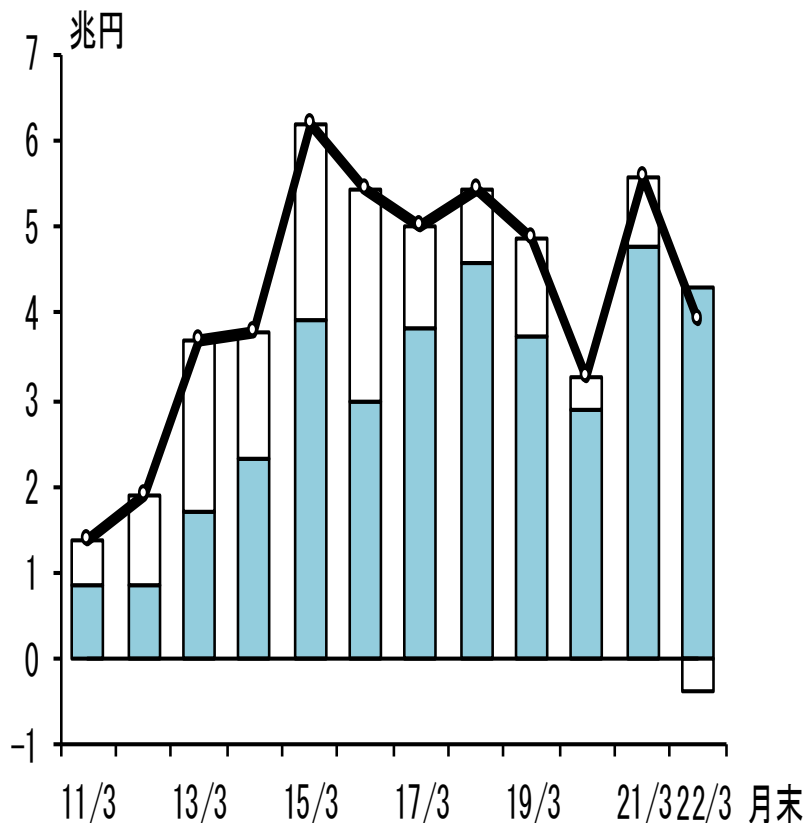
＜7月展望レポートで示したリスク＞

- ◆ 感染症が個人消費や企業の輸出・生産活動に及ぼす影響
- ◆ ウクライナ情勢の展開や、そのもとでの資源・穀物価格の動向
- ◆ 海外の経済・物価情勢と国際金融資本市場の動向
- ◆ 企業や家計の中長期的な成長期待

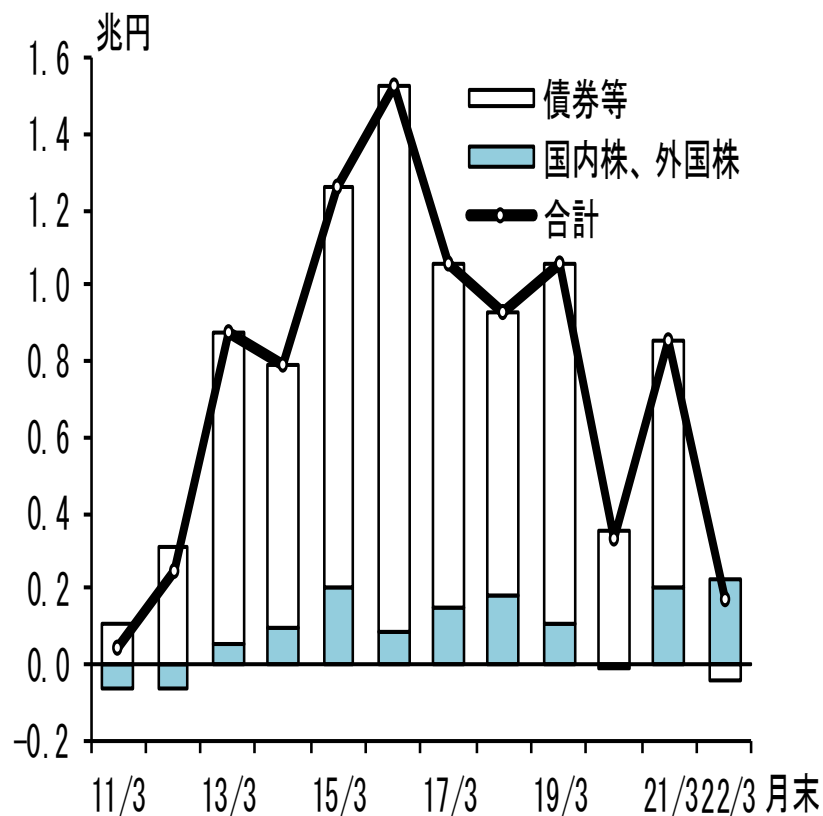
地域金融機関の有価証券評価損益（集計値）

➤ **地域銀行、信用金庫**の2022年3月末時点の有価証券評価損益は、前期末対比で減少。評価益は、政策投資株を中心に株式評価益で占められており、それを除けば、評価損超となっている。

<地域銀行>



<信用金庫>



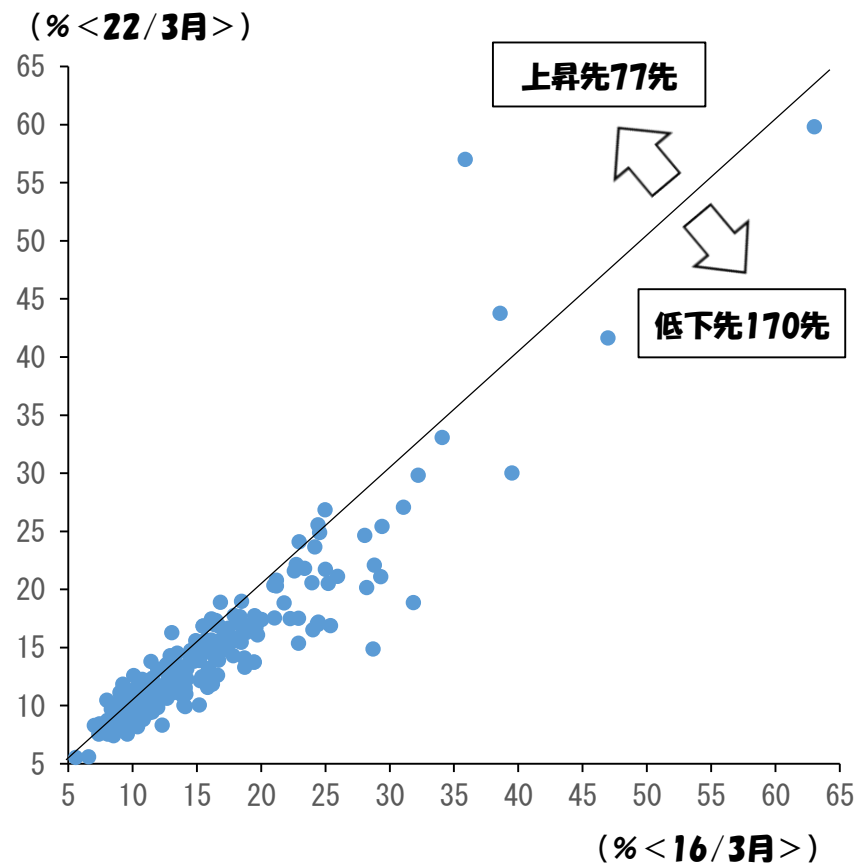
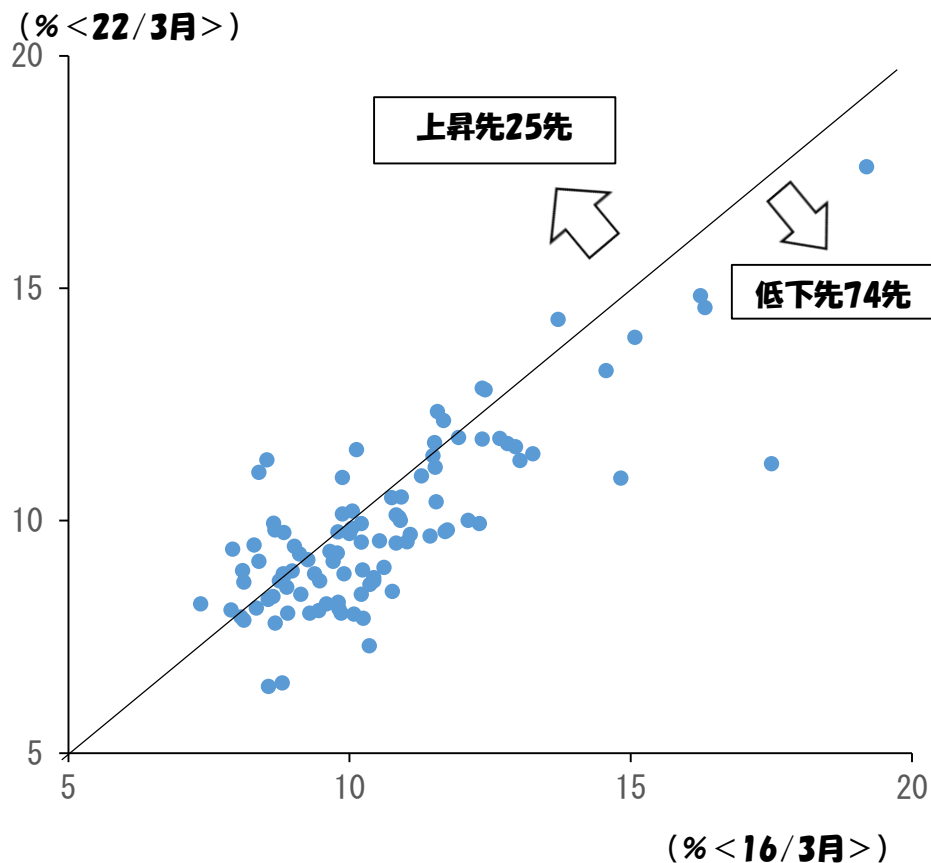
地域金融機関の自己資本比率（個別行庫）

- **地域銀行、信用金庫**の2022年3月末時点の自己資本比率を16年3月末と比較すると、地域銀行では3/4程度、信用金庫でも約7割弱の先が低下している。

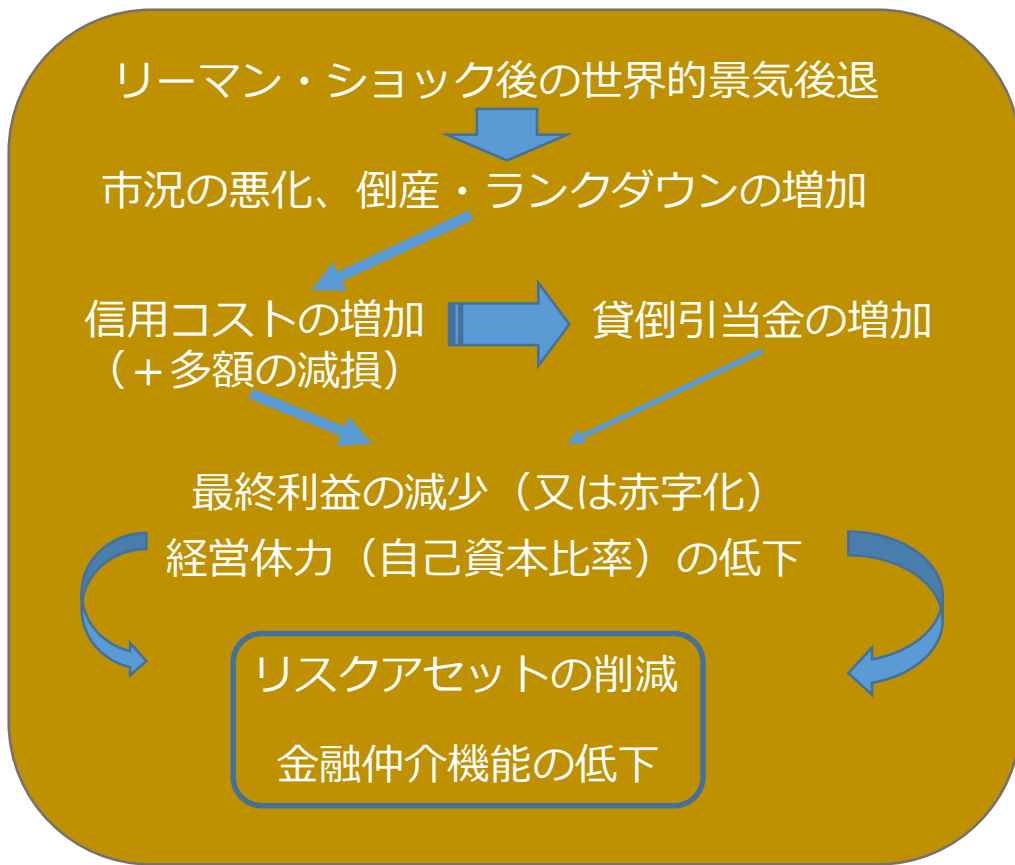
<地域銀行>

<信用金庫>

<2016年3月と22年3月の自己資本比率の分布図>



引当基準の見直しに向けた機運の高まりとその背景



好景気の継続



信用コストの減少→貸倒引当金の減少

来るべき信用サイクル
悪化局面への懸念

金融機関の業績が好調である時期に、景気後退に伴う信用環境の悪化を的確に予測し、引当金を積み増す。そうした備えがあれば、実際に信用コストが増加しても、経営体力の悪化を抑制し、ひいては健全な金融仲介機能の発揮が可能となる



金融検査マニュアルの廃止

長引くコロナ禍、一次産品価格の上昇



各行庫においては、自らのビジネスモデルやRAF^(注1)、営業基盤^(注2)、経営体力などを総合的に勘案し、適正な引当金を計上することがポイント

(注1) ミドルリスク層に注力、越境貸出に注力、家計向け与信に特化 etc

(注2) 主力産業が観光などの対面型サービス業、製造業の集積地 etc

一般貸倒引当金の積み増し：予想損失率の置き方

<債務者区分>

正常先	債権残高	×	予想損失率 a1	=	一般貸倒引当金
要注意先	債権残高	×	予想損失率 a2	=	一般貸倒引当金
要管理先	債権残高	×	予想損失率 a3	=	一般貸倒引当金
破綻懸念先	従来：会計基準上は、必要な修正として将来見込み等を考慮するとしているが、実際には、過去の貸倒実績率の過去平均を用いる先が多かった				予想損失率に低下圧力 ↓ 引当金が減少傾向
実質破綻先					
破綻先					

従来の工夫

例) 予想損失率へのフロア導入

例) 過去実績の参照期間をリーマン期を含めるよう長期化

工夫の方向性①：フォワードルッキング的な引当

- 1) 損失率 (Y) とマクロ指標 (X) の関係を $Y=a * X + b$ として導出。その上で、Xに先行きのマクロ指標を代入し、予想損失率を算出。
- 2) 個別企業の返済可能性を(期中に)考慮⇒債務者区分の変更或いは予想損失率を引き上げ

工夫の方向性②：グルーピング

債務者区分に即した引当金算出をベースとしつつも、特定のカテゴリーを切り出し異なる予想損失率を用いる

<従来> → <グループ引当> <予想損失率>

正常先	グループA	正常先	a1
		要注意先	a2
要注意先	グループB	正常先	b1 (> a1)
		要注意先	b2 (> a2)

カテゴリーとしては、代表的に業種別、地域別(本店所在地、越境地)、担保別 etc

<参考文献>

大嶋 秀雄 [2022] 「厳しさが増す地域銀行のビジネス環境と求められる収益基盤の強化」 日本総研 Research Focus No2022-007

喜多 和人 井邊 悠太 八ツ井 博樹 [2020] 「新しい融資・引当実務で求められる創意工夫と具体的手法」 『金融財政事情』 2020.10.19

金融庁[2018] 『融資に関する検査・監督実務についての研究会』 提出資料 平成30年7～10月

金融庁 [2019] 『検査マニュアル廃止後の融資に関する検査・監督の考え方と進め方』 令和元年12月

金融庁 [2022a] 「銀行の引当開示の充実に向けて」 2022年2月

金融庁 [2022b] 『金融仲介機能の発揮に向けたプログレスレポート』 令和4年6月

楠元 新一 中野 洵子 三尾 仁志 山下 裕司[2019] 「予想信用損失（ECL）型引当の特徴と運用面の課題」 『日銀レビュー』 2019-J-9

日本銀行金融機構局 [2020] 『地域金融機関における貸倒引当金算定方法の検討事例』 『金融システムレポート』 別冊シリーズ

日本銀行金融機構局 [2021] 『地域金融機関による引当方法の見直しと審査・管理の工夫』 『金融システムレポート』 別冊シリーズ

吉村 拓人 尾嶋 博之 石川 裕之[2020] 「フォワードルッキングな貸倒引当金の具体的な考え方」 『金融財政事情』 2020.9.7